

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道220号 古江バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：鹿児島県鹿屋市白水町 至：鹿児島県垂水市新城	延長	7.5km		
事業概要	一般国道220号は宮崎県宮崎市を起点とし鹿児島県霧島市に至る延長186kmの路線であり、九州東南部の主要都市を結び、物流や人の交流の上で重要な役割を担っている。古江バイパスは「古江坂」と呼ばれる急勾配・急カーブの連続箇所の解消を図り、安全性・円滑性の向上を目的とした、延長7.5kmの2車線道路である。				
H元年度事業化	H 年度都市計画決定	H4年度用地着手	H13年度工事着手		
全体事業費	170億円	事業進捗率	60%	供用済延長	3.9km
計画交通量	6,000～9,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 3.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 57/191億円 (事業費：50/174億円) (維持管理費：7.1/17億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 179/217億円 (走行時間短縮便益：170/196億円) (走行経費減少便益：8.4/17億円) (交通事故減少便益：0.24/4.7億円)	基準年 平成20年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.5（交通量+10%） B/C=2.8（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.9（事業費+10%） B/C=3.4（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=3.1（事業期間+20%） B/C=3.2（事業期間-20%）				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 物流効率化の支援（中核国際港湾志布志港へのアクセス向上） 国土・地域ネットワークの構築（日常生活圏の中心都市へのアクセス向上） 他6項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	古江バイパスは円滑な交通処理、走行環境および沿道環境の改善等に重要な役割を果たすことが期待されており、鹿児島県市長会等から早期整備の要望を受けている。（平成20年6月4日）				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> 大隅地域の人口は減少傾向にあるものの、自動車保有台数は増加しており自動車交通への依存が高まっている。 国道220号の当該区間は大隅地域と鹿児島市、九州各地を結ぶ産業・日常生活面の基幹ルートとなっており、交通量の伸びも1.15倍（H17/H11）と重要性を増している。 				
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度末の事業進捗率は事業費ベースで約60%であり、そのうち用地進捗率は約71%に達している。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後は、古江バイパスの起点を国道220号と接続し、鹿屋バイパスと直結するため、残る工区の早期完成を目標に整備を進める。				
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により、着実なコスト縮減を図るとともに、早期供用による事業実施の時間的コストの低減に向け、計画的・重点的な整備により効率性の向上を図る。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図	<p style="font-size: small;">凡例 --- 事業区間 --- 供用区間 (平成20年3月)</p>				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。